

平成27年度第12回景観審議会デザイン協議部会 会議要旨

1. 審議会（部会）の日時、場所、出席者、議事

(1) 開催日時 平成28年（2016年）1月28日（木） 午後2時00分～同4時00分

(2) 開催場所 宝塚市立男女共同参画センター 学習交流室4

(3) 出席者

・景観審議会デザイン協議部会委員

徳尾野部会長、赤澤委員、三谷委員、林委員、秀平委員

・事務局（都市整備部 都市整備室 都市計画課）

井ノ上部長、山下室長、下野課長、阪本係長、瀨崎職員、新元職員

・事業者

議事① 設計者 サンヨーホームズ株式会社一級建築士事務所

設計者 株式会社星羅建築事務所

議事② 事業者 宝塚市立病院 経営統括部管理担当

設計者 株式会社横川建築設計事務所

(4) 議 事

議事① （仮称）グッドタイムリビング宝塚新築工事〔2回目〕

議事② 市立病院放射線治療棟増築工事〔2回目〕

(5) 傍聴者

1名

2. 会議の要旨

事務局：本日の審議会（部会）は、委員5名の出席がありましたので、宝塚市景観審議会規則第6条第2項の規定により成立する旨を報告します。

会 長：了解しました。審議を開始します。本日の署名委員は順番により、三谷委員と林委員です。

会 長：景観審議会運営規程第3条第1項の規定に基づき、本日の議事は全て公開となっています。傍聴者があれば入室を承認しますが、傍聴者はいらっしゃいますか。

事務局：1名いらっしゃいます。

会 長：どうぞ、入室していただいて下さい。

☆☆☆★ (仮称) グッドタイムリビング宝塚新築工事〔2回目〕 ★☆☆☆☆

会 長：前回の協議から検討された変更内容等に関して、委員よりご質問又はご意見をお願いいたします。

本日、欠席されている委員から事前にご意見をいただいておりますのでご紹介いたします。

「色彩計画が大きく見直され、周辺に調和する色彩に計画されました。極端なコントラストや際立つ色彩がなくなり、周辺のまちなみ、生垣や路地の土色等に穏やかに調和するようになったと思います。検討していただきありがたく存じます。」とのことでした。

本日も外壁タイル、外壁吹付け塗材の見本をご持参いただいているとのことですので、確認させていただきたいと思います。

計画の外壁タイルと吹付け塗材は、見本と同じものですか。

設計者：見本と同じです。

会 長：外装材についてはよろしいでしょうか。

委 員：良いと思います。

会 長：植栽計画について、敷地北側の敷地境界付近には中木のソヨゴを植栽される計画ですが、受水槽付近には植栽されていません。植栽されていないのは何故ですか。

設計者：都市計画課との事前の協議で指摘を受けており、受水槽の北側から東側にかけて中木のソヨゴを延長して植栽します。

委 員：図面の受水槽付近に中木のソヨゴとは別に、大きい樹木の表記がありますが、この樹木は何を植栽されるのですか。

設計者：ソヨゴの予定です。神社参道にはツバキがあり、計画地内に高木を植栽するとツバキの邪魔をしてしまいます。ソヨゴは和風過ぎず、洋風過ぎず特徴がないことが特徴の樹木ですので、ツバキと喧嘩しないと思います。

委 員：ソヨゴは見た目も邪魔しないので選ばれたと思います。神社に落葉樹のエノキがあります。受水槽付近の広いスペースにエノキを植栽すると、より調和すると思います。エノキは上に向かって伸びるので、神社のツバキを邪魔することなく、景観としてよりマッチすると思います。

設計者：敷地北側の敷地境界付近の低木のシャリンバイは生垣の様にする予定ですので、寂しくならないと思います。

会 長：神社の高木は大きく育っており、計画敷地内にも張出していると思います。敷地境界付近に植栽するソヨゴは、成長すると神社側に張出すかも知れません

が、その点について支障はないのでしょうか。それとも神社側から張出した枝を切ることになるのでしょうか。

設計者：神社の樹木を切ることはありません。

委員：敷地西側県道沿いは、和風の住宅があり、神社の樹林が見え、その先に山並みが見え、宝塚の典型的なまちなみが続いているところだと思います。県道際の植栽は建物に合わせると共に、周囲の都市景観全体にも調和する植栽計画を配慮していただくと良いと思います。

例えば、県道際にヤマボウシの株立ちを計画されていますが、ヤマボウシは洋風で、株立ちにすると更に洋風になります。神社には綺麗な樹形の落葉樹のエノキがあります。エノキは和風の樹種ではありませんが、計画のヤマボウシを高木のエノキに替えると景観にマッチすると思います。目隠しとして常緑樹や入居される方が楽しめる植栽計画は良いと思います。高木で景観に配慮していただくと良いと思います。南西側の道路沿道は県道とは違った景観になり、玄関周りには計画の様に賑やかな方が良いと思います。

設計者：植栽の全てを洋風にしようとは思っていません。基本的には洋風としながらも和風を意識したいと思っています。アイストップの高木については、エノキに変更することを検討したいと思います。

委員：集合住宅の様な建物の植栽は、建物に合わせて和風、洋風を選びます。宝塚の住宅は、建物が洋風で外構は和風の和洋折衷の景観が特徴です。エノキを植栽すると格好良くなると思いますので、是非検討して下さい。

委員：可愛い花が咲く植栽が多く計画されていますが、管理が大切だと思います。

植栽の管理は、事業者とは別に植木屋さんが行うのですか。

設計者：事業者が運営されている別の施設では、どなたが植栽管理をされているのかは分かりませんが、しっかりと植栽を管理されています。灌水しにくい場所には灌水設備を整備するように言われており、心配はないと思います。

委員：神社との敷地境界付近の地盤断面はどの様になっているのですか。計画地にはコンクリートブロックで40cmから50cm程度地盤が嵩上されています。敷地境界付近にシャリンバイを植栽されていますが、それほど背丈のある植栽ではないと思います。神社の参道から計画地を見た時の目線の関係はどの様になるのでしょうか。

設計者：参道の縁は花壇の様に一段高くなっています。更に敷地境界付近の神社側に石垣があり高くなっています。計画地内で更に40cmから50cm程度の立ち上がりがあり計画地の地盤高さとなります。

委員：石垣の上に何かあるのですか。

設計者：石垣の上に敷地境界があり、計画地側に幅 50 cm から 1 m 程度の平場があります。

会長：石垣の上の平場にシャリンバイを植栽し、シャリンバイの建物寄りにコンクリートブロックの立ち上がりがあるという事ですね。

委員：参道は西側の入口付近から東側の奥に向けて緩やかな下り勾配となっていますが、入口付近での参道と計画地地盤の高低さと奥の参道と計画地地盤の高低さはどの程度になりますか。

設計者：参道は入口付近から奥に向かって 1 m 50 cm 程度下がっています。

委員：参道入口付近では、参道と計画地地盤の高さはほぼ同じ高さだと思いますので、計画地内の植栽の高さと参道からの目線の高さが気になります。

設計者：参道入口付近から計画地内が見えます。参道の奥からでも計画地内が見えると思います。

委員：計画地にシャリンバイを植栽されていますので、駐車場の車も見えないようにできないでしょうか。

委員：駐車場付近の参道と計画地の高低差はそれほどなく、駐車場の車が見えるので、植栽の高さは 1.5 m 以上必要だと思います。

委員：シャリンバイを植栽されるので植栽を生かせるように現況を確認して検討して下さい。

設計者：参道の低い位置から見上げることになるので、高さ 50 cm 程度の生垣があるだけで車のタイヤやボディは見えなくなると思います。

委員：緑化計画を変更されたようですが、緑地率はいくらになりましたか。

設計者：12% から 13% 程度になっていると思います。

委員：兵庫県の環境の保全と創造に関する条例で、この計画地では敷地面積の 20% の緑地面積の確保が義務付けられていると思います。不足している緑地の確保はどの様にお考えでしょうか。敷地の緑化が難しい場合は、建築物の緑化で対応することもできます。条例の規定で届出は不要であっても緑化の義務はあります。

委員：駐車場や駐輪場の中に植栽はないのですか。

設計者：植栽はありません。

委員：地上で緑地が確保できなければ、屋上緑化か壁面緑化が考えられますが、これらを計画する時は何となく確保するのではなく、例えば、建物北東に各階がそれぞれ階段状にセットバックした屋根があります。壁には開口部がないので、屋上部分と壁面が連動するように緑化すると優しくなると思います。

委員：シャリンバイは低いものではなく高さのある方が良いと思います。建物南西面の壁面を緑化することも考えられます。樹種として半日でも日照があると木

のように成長するヒメイタビで壁面緑化すると格好良くなると思います。
会 長：植栽について検討していただきたいと思います。
議題1については、これで協議を終了とします。

☆☆☆☆ 宝塚市立病院 放射線治療棟増築工事〔2回目〕 ☆☆☆☆

会 長：前回の協議から検討された変更内容等に関して、委員よりご質問又はご意見をお願いいたします。

委 員：壁面緑化の植栽についてヘデラを計画されています。ヘデラは吸着根により壁面に広がりますが、外壁面のタイルや粗い仕上げ面にヘデラをそのまま吸着させる計画ですか。

設計者：ステンレス製のワイヤーメッシュを外壁面に取り付け、ワイヤーメッシュに広がる様にする計画です。

委 員：ヘデラは吸着根で広がるのでワイヤーメッシュは不要だと思います。巻付くタイプの植物であれば、縦方向のワイヤーだけで十分だと思います。

ヘデラで壁面緑化するのであれば、壁に吸着させて成長するようにする必要があります。花を咲かせる植物にしたいのであれば、巻付くタイプが多いのでワイヤーメッシュを取り付けて、そこに広がる様にする必要があると思います。

花が咲く植物の場合は水と肥料を非常に多く必要としますので、灌水設備を設置する必要があると思います。また、肥料も多く与える必要があります、手間が掛かる覚悟が必要だと思います。

壁面緑化する所は北面で日当たりが非常に悪い所ですので、基本的に花が咲く植物は適しません。代わりに、吸着根や吸着盤で壁面にしがみつく木の様なつる植物を植栽した方が良いと思います。基本的には、甲子園球場の外壁に広がるナツツタで、お勧めは日陰でも強いヒメイタビというつる植物で、壁面に吸着して広がるのでワイヤーメッシュは必要ありません。

設計者：壁面緑化に関しては壁面緑化の専門業者に相談し、ワイヤーメッシュが必要となりました。ワイヤーメッシュを固定するため外壁のセメント板に補強が必要となりました。

委 員：壁面緑化する壁面が平滑で植物が吸着しにくい場合に植物を壁面に押さえるためにワイヤーメッシュを取り付ける場合があります。

ヘデラを植栽すると日陰にも強いのですが、緑の壁に見えてしまいます。ヒメイタビを主としてその中にヘデラをいくつか混ぜると良い表情になります。

例えば、1本だけヘデラまたはツルマサキを混ぜると葉の大きさやつき方に

違いがあり、壁面に立体的な表情が付き自然になります。壁面緑化する壁面の素材を生育に適したものにすることで、ワイヤーメッシュはいらないのではないかと思います。

海外の壁面緑化は、壁面全面に植物を這わすのではなく、血管の様にツルを伸ばし、壁一面を緑にはしていません。壁一面を緑にすると甲子園球場の様になり、そこまでする必要はないと思います。

狭いスペースですので、サザンカなども植栽し、立体感のある緑化にすると良いと思います。ただ、そここの壁面緑化を施すと、待合スペースの中から緑を見たい思っても、手前にサザンカがあると壁面緑化が見えないのもったいないと思います。壁面緑化を生かすのであれば手前にはシンプルなもの。例えば、葉ものであれば、常緑樹で枝葉が比較的少なく上方にスリムに伸びるソヨゴがあります。また、もう少しシンプルなものとして竹であれば手入れが非常に楽で、足元にタマリユ等を植栽すると見た目にも恰好良いと思います。待合スペースから十分に見える所に狭い空間でありながら双方を生かした立体的な空間ができると思います。

会 長：緑化率はかなりギリギリなのでしょうか。竹であれば高さとしては高木と同等ですが、枝葉が少ない分、緑量として評価することができるのでしょうか。

事業者：緑化率の問題がなければ、できれば壁面緑化は避けたいと思っています。壁面緑化をやめて緑がなくなることについて、建物内から見た時のアメニティとして確保できるのかという事で壁面緑化を考えましたが、先ほどのご意見で待合スペースから見える所に竹などで庭を造れればと思っています。

委 員：費用は大切な所に使えば良いと思います。

委 員：壁面緑化が無く、竹だけになると貧弱になると思います。外壁一面を緑化する必要もなく、できるだけコストも掛けずに壁面緑化を施せば良いと思います。

会 長：壁面緑化について図面として表現するのは今のままで良いと思いますが、実際には血管の様に伸びたツルに葉が付くようにすると良いと思います。

事業者：アメニティに関して壁面緑化にとられる必要はないと思います。

委 員：大切な事は患者さんに対してですので、患者さんの目が和むことを検討されてはいかがでしょうか。

委 員：診察室から外を見ることはほとんどないと思います。大切なのは待合スペースで、目の前に建物が建つことでこれまでの眺めがふさがれてしまいますので、それをどうするかだと思います。待合スペースの前に坪庭をつくる感じで、玉砂利やリュウノヒゲと竹があり、壁面緑化があるとイメージが良くなると思います。待合スペースからズレたところの壁面緑化は行う必要はないと思います。

委員：既存棟との接続部も待合スペースとなっています。現況の待合スペースはカーテンウォールから光が差し込みますが、増築する接続部は両側の壁面が壁になっており、光が差し込みません。一方、増築棟の階段室がカーテンウォールとなっています。

設計者：増築棟の階段室の先に待合スペースがあり、採光を確保するためにカーテンウォールとしています。

委員：階段室のカーテンウォールを止めて、接続部の待合スペースをカーテンウォールにすると待合スペースに光が入り明るくなると思います。予算があるのであれば、屋根も温室のようにして光を取り込むことができれば、ほっとする空間になるので検討していただきたいと思います。接続部をカーテンウォールにする際には、柱は支障にならない端に配置した方が良くと思います。

設計者：柱の位置について当初は端に寄せる考えでしたが、既存棟の基礎や配管類があり、端に寄せることができません。

委員：事情は分かりますが、カーテンウォールが綺麗に納まるように全体を考えていただけると良いと思います。

設計者：既存棟との接続位置は現況の待合スペースしかありません。増築棟への通路と待合スペースの兼用となり、できるだけ椅子の数を減らさないようにしています。また、患者さんをベッドのまま移送することがあるため、通路幅も確保する必要があり、スペースとしてあまり余裕はありません。

委員：いずれにせよ、真っ暗な壁よりも明るい方が良いと思います。

設計者：窓を付けるスペースはあります。

委員：増築棟と繋げるのであれば、カーテンウォールで繋いだ方が綺麗だと思います。待合スペースをこれまでの明るい状態から反転する様な状態にせず、既存棟と増築棟のそれぞれの待合スペースをできるだけ明るい状態にすることを検討すべきだと思います。

設計者：既存棟と増築棟の距離は、1階で3m弱、2階でも4m程度しかありません。

ご意見はよくわかりますが、接続部をカーテンウォールにした場合に費用対効果があるのか気になります。例えば、カーテンウォールにしないで、足元まで開口にすること等で内部に光を取り込むことはできると思います。

委員：少しでも光を取り込む方が良いと思いますので、是非検討して下さい。

会長：検討をお願いします。

事業者：接続部については、光を取り込むことができるように検討したいと思います。

委員：増築棟の待合スペースの採光を確保するために階段室付近をカーテンウォールにしているという事ですが、何故、階段室にカーテンウォールを施すのですか。

設計者：階段室から待合スペースに掛けて堅穴区画のシャッター等の扉がありません

ので光を取り込むことができます。

委員：接続部に開口を設け、光を取り込むと階段室からと同じ様に採光を確保することができると思います。階段室のカーテンウォールを一般的な壁に変更し、接続部の壁をカーテンウォールにするとコストは増加しないと思います。余分な経費は削減し、必要な所に経費をつぎ込む方が良いと思います。

委員：壁面緑化の経費を節減し、その分で接続部をカーテンウォールにしていきたいと思います。

事業者：委員からのご意見はよくわかります。私どもも待合スペースは大切な空間だと認識しており、採光を確保する方向で検討してみたいと思います。

会長：当初は屋上の目隠しルーバーに施設名称を掲出する計画でしたが、今回、掲出は取止めになりました。目隠しルーバーの内側には様々な設備機器が設置され、周囲から見えない様に目隠しルーバーの高さも検討されていると思います。目隠しルーバーの高さが相当ありバランスが悪いと思われるので低くすることはできないでしょうか。

設計者：目隠しルーバーの高さは現計画で目隠しとなるギリギリの高さです。増築棟近くからは屋上の設備機器は見えませんが、少し離れると見える恐れがあり、最低限の高さにしています。

会長：目隠しルーバーの配置をパラペットより更に後退させるなど、見た目の高さを低く抑えていただきたいと思います。

設計者：その点を考慮して設備機器を配置し、必要最低限のメンテナンススペースを確保し目隠しルーバーの高さと配置を計画しています。

会長：増築棟南側駐車場内のクスノキは移植を計画されていますが、移植について心配があります。

委員：移植を考えているクスノキの幹は相当太くないですか。

事業者：目測で直径が20cm程度だったと思います。

委員：クスノキでも相当細いのですか。

事業者：中木程度の認識があります。

委員：その程度であれば移植は可能だと思います。外構写真を見ると、直径が40から50cm程度はありそうなクスノキがあるので、それであれば移植は難しいと思いましたが、細いのであれば移植もできると思います。

既存樹を残すことは良いのですが、駐車場の中に樹木があると良いと思います。駐車区画の端の部分に植栽スペースがありますが、このスペースに樹木を植栽することはできないでしょうか。

事業者：地中に構造物があり、根が張れないので難しいです。

委員：移植するクスノキの写真をみると直径は40cm以上ある様に見えます。幹が太ければ太いほど移植は難しくなります。クスノキはそれほど枝を切れない樹種です。移植のために枝を切ると丸太の様になり、移植後、丸太から細い枝が伸びるので、移植前とは全く違った樹形になってしまいますので、移植はしない方が良いでしょう。

委員：大きなクスノキを残すのであれば、細い樹木を植栽してもすぐに大きくきれいになります。移植のために一度切ってしまうと、悲しい樹形になってしまいます。

委員：一番良いことは今のまま残すことで、それが出来なければ移植ではなく、既存樹に代わるクスノキを少し本数を増やして駐車場にしっかり植樹することだと思います。移植は根付かせるのが難しく、樹形も移植前とは違ってくるので最後の手段だと思います。

駐車場の周囲には樹木がたくさんありますが、駐車場の中に樹木が1本もないことは避けたいと思います。駐車場の中に適度にクスノキがあると良いと思います。

事業者：まずは残すことを検討し、それが難しければ移植ではなく、既存樹2本伐採するのであれば新たに3本植樹する手法で考えたいと思います。

会長：既存棟と増築棟の間のアメニティについて経費を掛けずに待合からの見栄えについて検討をお願いします。

事業者：絶対に壁面緑化によりアメニティを確保するのではなく、中庭に植栽するものとそれを通してその後ろの背景を中心に考えれば良いという事でしょうか。

委員：壁面緑化は計画のスペースでも施した方が良いでしょう。中庭だけに何かを植栽して綺麗にすることは難しいと思います。中庭に植栽する竹等をシンプルにする代わりに壁面緑化のコストも掛けず、待合スペースから見える所を重点的に工夫していただくと良いと思います。壁面が緑一面になる甲子園球場の様な計画をされていますので、そこまではしなくて良いのではと思います。

事業者：待合スペースから見る風景を考えるとこの事ですね。

委員：壁面緑化の緑化面積については、植物の葉により実際に覆われている部分ではなく、つるが伸びる範囲を緑地面積と考えても良いと思います。

無理やり甲子園球場の様にする必要はないと思います。

会長：議題2については、これで協議を終了とします。